

事務 事業名		コード1	2025	文化振興事業	課	生涯学習課					
		コード2		----- ☑ 主要事業		所属班	文化振興班				
					電話番号	57-5728	内線	280			
政策 体系	基本方針	4	心豊かな人と文化を育むまちづくり		予算	会計			款	項	目
	施策	7	芸術文化の振興・伝統文化の保存		科目	一般会計			10	04	02
	施策の展開	2	舞台芸術・各種文化事業の実施		根拠 法令	旭市文化振興基金条例・旭市文化振興規則・旭市文化施設使用助成要綱					
	基本事業	264	舞台芸術・各種文化事業の実施								

1 現状把握(Do)

(1)事業概要

① 事業期間	② 事業の内容 ※何をどのようにする事業なのか、市民が理解できるよう記述する、行政用語は使わない
☒ 単年度繰返 ☒ 平成 17 年度～ ☐ 開始年度不詳 ☐ 期間限定複数年度 平成 年度～ 平成 年度まで ※全休像を記述⇒	文化振興事業(あさひ少年少女合唱団補助金を除く)とは、1. 千葉県東総文化会館にて市主催のコンサート・寄席・音楽祭・あさひのまつりなどを開催し、2. 市内で活動する歌謡・舞踊などの団体に、東総文化会館を使用する際に文化施設使用料を助成する事業。 1. 市主催事業 (有料):①演劇鑑賞教室、③ロシア交流コンサート、⑥稲垣潤一コンサート、⑨あさひ寄席→【費用】委託費+建物賃借料(無料):②市民音楽祭、④あさひのまつり、⑤市民ミュージカル、⑦市文化祭、⑧文化講演会、⑩スプリングコンサート、⑪NHK公開番組→【費用】委託費+利用料+施設利用料 2. 使用料助成 歌謡、舞踊、カラオケ→施設使用料の半分の助成している。(上限、回数制限有) 【業務の流れ】 市主催の文化振興事業については、公演計画、委託業者選定、事業周知広報、会場運営及び警備等、公演にかかる事務全般。文化施設使用料助成については、申請の承認及び支出事務

(2)トータルコスト

① 事業費の内訳(費目等)

市主催事業関係(報償金、消耗品費、食料費、印刷製本費、修繕費、通信運搬費、手数料、公演等委託料、自動車借上料、建物等借上料、諸借上料)
文化施設使用助成金関係(負担金補助及び交付金)

② 延べ業務時間の内訳

主幹(0.5)、担当(1.0)

事業費 内訳	単位	21年度 (決算)	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (計画)	25年度 (計画)	26年度 (計画)
	国庫支出金	千円 0	0	0	0		
	都道府県支出金	千円 0	0	0	0		
	地方債	千円 0	0	0	0		
	その他	千円 16,537	13,405	8,988	15,250		
	一般財源	千円 8,097	7,526	6,331	10,895		
	事業費計(A)	千円 24,634	20,931	15,319	26,145	0	0
	正規職員従事人数	人 1.50	1.50	1.50	1.50		
	延べ業務時間	時間 3,022	3,022	3,022	3,022		
	人件費計(B)	千円 11,484	11,484	11,484	11,484	0	0
トータルコスト(A)+(B)		千円 36,118	32,415	26,803	37,629	0	0

(3)事務事業の手段・目的・上位目的及び対応する指標

手段	① 主な活動	⑤ 活動指標名	単位	21年度 (決算)	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (計画)	25年度 (計画)	26年度 (計画)
	23年度実績(23年度に行った主な活動) 1市主催事業 市民音楽祭、あさひのまつり、アフターコンサート、市文化祭、文化講演会、あさひ寄席、スプリングコンサート、市民ミュージカル(ワークショップ) 2文化施設使用料助成	ア 市主催事業回数 (うち入場料無料のもの)	回	12 (8)	12 (7)	9 (7)	11 (7)		
	24年度計画(24年度に計画している主な活動) 演劇鑑賞教室、市民音楽祭、ロシア交流コンサート、あさひのまつり、市民ミュージカル、稲垣潤一コンサート、市文化祭、文化講演会、あさひ寄席、スプリングコンサート、NHK公開番組、文化施設使用料助成	イ 使用料助成件数	団体	13	14	12	17		
目的	② 対象(誰、何を対象にしているのか)	ウ 使用料助成金額	千円	835	822	837	1,300		
	①市民 ②市の文化団体・サークル	⑥ 対象指標名	単位	21年度 (決算)	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (計画)	25年度 (計画)	26年度 (計画)
	③ 意図(対象がどのような状態になるのか)	ア 市内人口	人	70,138	69,749	69,223	69,136		
上位目的	①普段味わえない文化を楽しむ。 ②助成金のおかげで大きな舞台で発表することができる。	イ 文化施設使用料助成申請団体	団体	13	14	12	17		
	④ さらに、どんな上位目的に結び付けるのか	⑦ 成果指標名(考え方)	単位	21年度 (決算)	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (計画)	25年度 (計画)	26年度 (計画)
	市民の文化に触れたいと思意識が高まる	ア 市主催事業の利用者数 ()	人	18,268	15,759	14,862	9,240		
		イ 助成によって参加できた団体の発表者数 ()	人	1,434	1,367	1,436	1,300		
		⑧ 上位成果指標名(考え方)	単位	21年度 (決算)	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (計画)	25年度 (計画)	26年度 (計画)
		ア 「日常から文化に触れている」と答えた市民の割合 ()	人						
		イ ()							

(4)事務事業の環境変化、住民意見等

① 開始したきっかけは何か?どんな経緯で始まったか?	② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか?開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったか?	③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?
合併前の旭市文化振興基金、海上町文化振興基金に属していた現金、有価証券その他の財産を、新市文化振興基金を設置した。	文化振興基金は毎年ほぼ10,000千円近い額を取り崩しており、例年同様の事業運営をするとH25年度末には基金がゼロになる。	・文化振興審議委員会にて、基金の現状について説明。本年度の審議会にて、次年度以降の対処を諮る。 ・参加者から「身近に見れてよかった」等の意見があった。 ・助成を受けた団体の発表者から「助成が年1回になったので、開催回数を年1回に減らした」といった意見があるほど、この文化会館を利用する団体にとって助成金のメリットは大きい。

事務事業名	文化振興事業	課名	生涯学習課	班名	文化振興班
-------	--------	----	-------	----	-------

2 評価(Check1)担当者による事後評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが上位目的に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 結びついている ⇒【理由】 市民の文化に触れたいと思う意識が高まることにつながる。総合計画上の施策「舞台芸術・文化事業の実施」にもつながる。
	② 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☐ 適切である ⇒【理由】 市民全体といえながらも、主催事業の公演内容により対象者に偏りがある。児童向けの事業を取りやめたことで、事業対象者が主に中学生以上となっている。文化振興基金の減少を反映し、主催事業の削減や文化施設使用料助成額及び補助金の削減などが必要。
	③ 行政関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して実施すべきか？	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☐ 妥当である ⇒【理由】 地元の文化施設と市民を結びつける役割として必要であるが、現状の継続が困難なことから、事業の運営を見直すべきである。
有効性 評価	④ 成果の現状水準 あるべき水準や目標に達しているか？近隣市や類似団体と比較してどうか？	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☐ 妥当である ⇒【理由】 入場者数の減少傾向からすると費用対効果が目標に達しているとは言えない。また施設利用助成対象団体が固定化していることから、限定された市民に対する助成となっている状態である。
	⑤ 成果の向上余地 次年度以降の成果向上が期待できるか？事務事業を取り巻く環境変化等を考慮するかどうか？	☐ 活動量を増やせば成果は向上する ⇒【理由】 ☒ 活動量を増やさなくても、やり方を工夫することで成果は向上する ⇒【理由】 ☐ 活動量を増やしたり、活動を工夫したりしても、今以上成果は向上しない ⇒【理由】 基金の減少からも、主催事業を増やせないことは明らか。また施設使用助成についても、大きく団体数を増やすように周知することは難しい。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業の他(民間・国県を含む)に方法があるか？ ↓ 他に手段がある場合 (1)具体的にはどのような事務事業か？ (2)類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☒ 他に手段がある ↳ (1) 事務事業名：() (2) ☐ 統廃合ができる ⇒【理由】 ☒ 連携ができる ⇒【理由】 ☐ 既に統廃合・連携している ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 東総文化会館を指定管理者である公益財団法人千葉県文化振興財団との合同主催を増やす。 ☐ 他に手段がない ⇒【理由】
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 (表面トータルコストの事業費部分) 事業費を削減できないか？(経費の精査、過剰仕様の適正化、回数削減、住民の協力、アウトソーシングなど)	☒ 削減余地がある ⇒【理由】 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】 公演内容の精査、広報周知媒体の変更及びそれによる印刷製本費の削減、会場規模の再検討、入場料の増額等。無料の場合の件数を削減。企業協賛などを考えれば削減が可能。会館の利用料金の減額を求めるのは難しい。以前交渉した経緯はある。
	⑧ 人件費の削減余地 (表面トータルコストの人件費部分) やり方の工夫(業務プロセスの改善など)や臨時職員の活用・委託により、正規職員の延べ業務時間を削減できないか？	☒ 削減余地がある ⇒【理由】 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】 公演数を削減できれば時間的な人件費の削減につながる。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☐ 公平・公正である ⇒【理由】 上のとおり、主催事業の公演入場対象及び施設使用料の助成団体について公平とは言えない。

3 評価(Check2)担当課長による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 全体総括(振り返り、反省点)
① 目的妥当性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ② 有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ③ 効率性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ④ 公平性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり	文化振興基金が1～2年の内にわずかとなること明らかにしている現状からして、早急に事業の見直し、あり方の再考が必要であり、文化振興審議会での諮問を踏まえた上で、適正な対策を講じていく。①会館使用料助成を申請する団体が固定化しており、市民全体の公平性を考慮すると、新規の団体が増えることが望ましい。②入場料無料の事業は、経費の負担が大きいため、有料化を検討するなど、方策を立てる。③東総文化会館の自主事業のうち同じ目的があるものについては、廃止・削減する方向を考慮する。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(Plan)

(1)今後の事業の方向性(複数選択可) ※2～3年後を目処にした方向性		(3)改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)																					
☐ 目的再設定 ☐ 事業のやり方改善による成果向上 ☒ 事業のやり方改善による事業費削減 ☒ 受益機会の適正化 ☐ 廃止・休止	☐ 行政関与の見直し ☒ 事業統廃合・連携(関連事業) ☒ 事業のやり方改善による延べ業務時間削減 ☐ 費用負担の適正化																						
(2)改革改善案について ※いつまでに、なにを、どうするのか？ ①文化振興審議会において、基金の状況と事業運営の改正を諮る。方針を再検討。24年11月審議会経過説明し、25年3月審議会で審議を諮る。 ②市主催事業(有料事業)の値上げを検討。25年度事業を含めた今までの動向から、今後の価格を設定する。 ③主催事業の数を絞り、重点化、合同主催を検討する。25年度事業以降の実施を目標に、合同主催については、県文化振興財団へ提案する。 ④委託契約の内容変更の検討。25年度中に委託業者に照会する。																							
(4)改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策 ①審議会委員の事業運営問題点の理解。→11月審議会において、審議会委員の共通理解を、3月審議会で会の総意を求める。 ②入場料改定による、入場者数の減少が見込まれる。→価格の適正な設定。 ③削減する事業の選定。→コストと入場者数の費用対効果から判断する。 ④入場料を委託業者が設定することによる、入場者への負担増。→契約交渉段階での入場料単価の確認。		<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">コスト</td></tr><tr><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持	○			低下			
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持	○																					
	低下																						